

第3章 富浦地区（旧富浦町）

1. 位置

南房総市旧富浦町は、北は木の根峠（181メートル）を通る東西の山脈によって旧富山町と、東は南北に走る200メートル級の山脈によって旧三芳村と、南は堂山とそれに連なる東西の小丘陵によって館山市と境し、西は南北約10kmに及び東京湾に面した海岸線である。



2. 地形

地形的には、1)数千年前から隆起を繰り返してきた段丘を持つ豊岡以北、2)岡本川下流域の平野部と長い砂浜、3)岡本川の本・支流が作り出した河岸段丘や当地区最高地点である青木山（215メートル）を含む旧八束地域^{やつか}と4)館山地区と境を画する自然豊かな大房岬^{たいぶさ}（60～80メートル）とに分けられる。

4 . 山 岳

1) 聖山ひじり(岡本城跡)



概要

聖山の全景

ア) 所在

JR 富浦駅から国道 127 号線に出て北上 10 分、「里見公園」の案内板を目印に旧道トンネル手前に山への上り口がある。豊岡地区と原岡地区のほぼ中間に位置する。

イ) 標高 60.6 m

ウ) 歴史

里見氏ゆかりの地

岡本城は戦国時代の典型的な山城であり同時に江戸湾に入る舟を見張り、敵と見れば直ちに水軍も出動させられる海城でもあった。里見家 7 代義弘が息子の 8 代義頼を安房の押えとして、この城に置き、後の内乱で梅王丸派に勝利してから 9 代義康が館山城に居城を移すまで里見宗家の居域であった(1580 年代の 20 年間)。近年の発掘調査により、相当の高層建築の跡が発見されたという。

エ) 自然

全山スダジイ、マテバシイ、雑木におおわれ、また山麓にはビワ畑がある。

ハイキングコース

ア) 距離と標準時間

本丸跡へのコースは富浦駅から線路沿いの道を北上、生方クリニックを左に見て踏み切りのある道を左折、しばらく行くと右側に日蓮宗全昌寺の看板がある。国道 127 号に向かって進むと「東京芸大付属大泉小学校」の看板があり、ここを右折。進んで道なりに左折、コンクリート坂を行くと「里見公園」の案内板がある。細い道を登り進むと掘割り跡がある。更に左側に登ると本丸跡。

全行程 1 ~ 1.5 時間。この尾根道を北に進む。狭い土橋を過ぎると西に視界が開ける。大房岬、館山湾、眼下の法華崎（日蓮が鎌倉渡海の際に立ち寄ったという）の眺めが美しい。最初の掘割りから曲輪沿いに東に進み更に道なりに北に進むと枡ヶ池という岩盤を掘り込んだ水堀がある。山上にあるのに水が涸れたことがないという。



岡本城跡狼火台からの眺め（大房岬）



岡本城跡狼火台からの眺め（法華崎）

イ) 建造物

岡本城址

岡本城は、戦国大名里見義弘が、小田原の北条氏に対する海防の要地にするため、時の城主であった岡本随縁斎から譲り受けて修築し、元龜3年(1572)に完成させた城である。

義弘は城主として子の義頼を住ませた。城の山腹はすべて削り上げて絶壁にし、郭や掘り切りが作られている。

山腹の要害と呼ぶ所は城主の館の跡で、東方の聖山は、天正7年(1579)に起きた里見一族内紛の時、義頼の弟・淳泰が幽閉された所である。

聖山の北東山頂付近には、岩盤を掘る込んだ水堀・榊ヶ池があり、どんな干天にもかかれることはなかったという。

本丸跡のやや広いスペースの一角に石碑や石仏がある。

(市指定文化財)



岡本城跡碑



岡本城本丸跡の石碑



岡本城本丸跡の祠

付近の見どころ

ア) 自然

海岸

下山してから国道 127 号線を横切り、北側の豊岡海岸や南側の原岡海岸を法華崎遊歩道がつないでいるので磯遊びを兼ねて散策するのもよい。豊岡海岸の更に北に位置する南無谷海岸とともにこの辺りにはミヤコグサ、ハマヒルガオ、ハマゴウといった海浜植物の群生が楽しめる。



法華崎遊歩道

イ) 歴史

光厳寺

岡本城跡の東南、富浦中学校の東側には光厳寺（富浦町青木字面井戸）がある。曹洞宗の寺で里見義頼（1587 年天正 15 年没）の菩提寺である。



光厳寺本堂

里見義頼の墓

金竜山光厳寺境内の墓地に、石垣をめぐるした一角があり、その中に戦国大名里見義頼の墓がある。

墓塔は室町時代末期の特徴をよく現し、歴史的にも文化財的にも一級のものである。

義頼は天文12年(1543)里見六代義堯の子として生まれ、元龜3年(1572)兄の七代義弘により岡本城が築かれると、城主となって南総に威をふるった。

後に兄義弘の遺領を継ぎ、里見家の八代目宗主の座についたが、平穩にはなかった。

原因は兄義弘が死に臨み、義頼に安房国を実子梅王丸に上総国を与えようとしたことにある。

それを不満とする義頼は、義弘の死後梅王丸を捕らえ剃髪の上、岡本城の東方聖山に幽閉し、武力をもって義弘の遺領すべてを相続した。

天正15年(1587)10月26日義頼は、病のため逝去した。享年45歳、法号は大勢院殿勝岩泰英大居士という。(市指定文化財)



光厳寺 里見義頼の墓

興禅寺

岡本城跡の東南、富浦中学校の東側には興禅寺（富浦町原岡字金山）がある。臨済宗の寺で里見義弘の妻にして、義頼の母と考えられている青岳尼が開いた。彼女の供養塔がある。



興禅寺本堂



興禅寺山門

青岳尼供養塔

戦国大名里見義弘の正室青岳尼の供養塔がここ海恵興禅寺にある。弘治2年（1556）義弘は宿敵北条氏を懲らしめるため、三浦の城ヶ島を攻略し、勢いに乗じて鎌倉まで攻め入ったが、そのとき鎌倉円覚寺系の尼寺太平寺から、若くて美しい住職青岳尼を連れ帰り正室にした。

戦国武将の豪快さがしのばれるが、実は義弘と青岳尼は幼なじみの友だった。

青岳尼は天文7年（1528）の第一次市川国府台合戦で、北条勢に敗れて戦死した小弓御所（下総浜野）足利義明の遺児で、国府台の敗戦のとき、小弓から家臣に伴われて逃れ、一時房州の里見義堯（義弘の父）のもとに、身を寄せたことがあった。

青岳尼は還俗して義弘の正室になり、御仲はなはだ睦まじくと言われたものの若くしてこの世を去った。（市指定文化財）

本名も死亡年月日も不明であるが、法名は智光院殿洪獄梵長大姉という。興禅寺は、青岳尼の菩提寺である。



興禅寺青岳尼供養塔

ウ)文化財

忍足佐内殉難の地

釈迦寺の槨

妙福寺日蓮上人の裸像 / 真筆 / 極め書

長泉寺の大黒様



長泉寺

2) 城山しるやま (宮本城跡)



城山の全景

概要

ア) 所在

県道・犬掛いぬかけ館山線沿いの道の駅おおつの里「花倶楽部」を目安とする。山麓は宮本地区、頂上は宮元地区と大津地区との境である。

イ) 標高 183m

ウ) 歴史

里見氏ゆかりの地

房総里見氏の初代、里見義実はず白浜に本拠地を置き、次に安房を支配するべく館山の稲村城に進出、子の義通はこれを拠点に安房の国守となったが義通の子・義豊の時に天文の内乱(1533年)が起こり、覇権は分家筋の里見義堯の手に移る。ここから後期里見氏と称するが、この頃から上総にもにらみを利かせるためか、義堯は宮本城や滝田城に拠点を移した。なお宮本城は2代・里見成義が稲村城の支城として築いたものである。

本丸跡

本丸跡はかなり広い平面となっており戦国時代の山城としては珍しいのではないかと。

エ) 自然

頂上の西側からは南無谷崎、豊岡の山並み、大房岬、更に洲崎から伊豆大島まで見渡せる。登山道の左右は杉と雑木の林であり、マムシグサが群生している。また、旧富浦町指定の天然記念物「ホルトの木」の大木がある。ポルトガル渡来の南方系の樹木でここが北限とか。

ハイキングコース

ア) 距離と標準時間

「花倶楽部」を右手に見ながら過ぎてすぐ右側に案内板があるのでそこを東に右折、宮本配水場（円柱状のタンク）を目標にする。

タンクを過ぎその先のコンクリート道を進み左折。道の両側は土手である。民家が見える三叉路を左に折れると「宮本城跡」の標識。これを右に入る。左右は杉林である。掘割りのところで分岐。右折すれば尾根づたいに三芳村の滝田城跡への道。左進して本丸である頂上を目指す。山の南側をまわり込むように進み最後の鋭角を右折、急坂を登って頂上に至る。下山路は頂上北西側からの急坂である。すぐにピク畑、コンクリート道を経て宮本配水場までの道に出られる。

配水場からは40～50分である。

イ) 文化財

ホルトの木

ウ) 建造物

本丸跡である頂上には石碑があり「八束村大津字東山区」と読める。

カ) 体験型観光

道の駅おおつの里「花倶楽部」



道の駅おおつの里「花倶楽部」

平成 15 年 8 月に道の駅の認定を受けた観光施設。“花とフルーツの森”をテーマに南房総の代表的な花を始め、四季折々の花と果物とを栽培。一年中花が咲き乱れる環境の中で、農場の見学、花摘み、農業体験などが出来る。

例えば、キングョソウ、アルストロメリア（11～5月）、アイスランドポピー、サンゴアロエ、ストック（12～3月）、ユリ（2～5月）、キンセンカ（1～3月）、ガーベラ（10～5月）、いちご（1～5月）、ビワ（5～6月）、トマト（6～8月）、スイカ（7月）、メロン（7～8月）、ブドウ（8月）などが楽しめる。



アルストロメリア



ガーベラ



キンセンカ

3) ^{たいぶさ}大房岬（大房自然公園）



大房岬からの眺望

大房岬

概要

ア) 所在

旧富浦町多田良地区の一部、町の南端から大きく西側、東京湾に張り出した岬である。

イ) 標高 80 m

ウ) 歴史

大房岬は、大宝崎、大武佐という呼び名を経て今日の大房岬となった。即ち、8世紀初頭の大宝年間に、この岬の山中の岩穴に不動明王の像を祀り信仰したことから大宝崎と呼ばれた。次に15世紀半ば、房総里見氏初代の里見義実が三浦半島から安房に渡って来た時、先ずこの岬に上陸し武運の向上を祈願した。その後安房を掌中に出来たことで「大いに武を^{たす}佐けた」として不動明王を大武佐不動と呼んだことから大宝崎は大武佐となった。

江戸末期、黒船来航を機に、岬の西南端に黒船に備えた大砲を据えたが現在はかすかにその土塁の名残があるのみ。今次大戦の際、帝国陸軍の要塞建設が行われ空母「鞍馬」の大砲二門を西方海上に向け首都防衛の任務につけた。現在、砲台、探照灯跡が残っている。

昭和33年、大房岬を含む南房総の海岸線一帯は国定公園として指定された。



要塞跡発電所

エ) 自然

大房岬は海と山とが同時に楽しめる自然豊かな場所である。岬の2つの突端にはそれぞれ展望台があり、三浦半島、伊豆大島、富士山等の眺望が楽しめるし、夕陽の絶景ポイントのひとつでもある。桜並木を抜けて第一展望台に向かう広場の左側には高さ15メートルの展望塔もある。愛宕山、御殿山、大日山、鋸山など安房の名山が一望できる。岬の周囲の殆どは海蝕崖で囲まれていて西端の洞穴には多くの伝説がある。南繫船場から左前方の海蝕による断崖の眺めは絶景である。



断崖からの眺め

大房岬で見られる主な植物

園内の大部分はマテバシイでおおわれているが、これは植樹されたものである。この地の樹木としては、モチノキ、ヒサカキ、ヒメユズリハ、ハリギリ、カラスザンショウ、アカメガシワ、イヌビワ、コナラ、タブノキ、ハコネウツギ、アケビ、ガマズミ、シロダモ、センダ

ンなど。また海岸近くには、トベラ、マサキ、マルバグミ、マルバシャリンバイなどが見られる。また駐車場周辺や芝生園地周辺には、ツバキ、キブシ、ヤマザクラ、オオシマザクラなどの植栽も見られる。

樹木以外の野草類としては、スカシユリ、ハマカンゾウ、ハマゴウ、数種類のスミレ、ツワブキ、ウラシマソウ、メダケ、ヤブソテツ、ハチジョウススキ、テリハノイバラ、イソギク、オニシバ、ラセイタソウ、などが観察できる



イヌビワ



カクレミノ



シロダモ



キブシ



クサギ



センダン



ガマズミ



タブノキ



ヒサカキ



ハゼノキ



ヒメユズリハ



ヤブニッケイ



モチノキ



ヤブツバキ



マルバアキグミ

大房岬で見られる主な小動物

イタチ、ノウサギ、タヌキ、アナグマといった哺乳類の他にアオダイショウ、ヤマカガシなどの爬虫類が棲息している。また、トビ、キジバト、メジロ、イソヒヨドリ、クロサギ、ツバメ、ジョウビタキ、アオジ、ハヤブサ、ミサゴ、ウミウ、カモメ類、ヒヨドリ、トラツグミ、ノスリ、ルリビタキといった渡り、定留各種の鳥類が見られる。更に山中の赤土の中にはアカテガニが棲んでいて夏の満月の夜に、産卵のために海岸に向かって集団移動する姿が知られている。

大房岬で見られる主な海洋生物

南端には1ヶ所磯に続く砂浜があり磯遊びには絶好である。この砂浜の隣が南繫船場であり、釣り人の人気の場所である。ここで見られる海洋生物としては、先ず海藻類でボタンアオサ、ヘライワツタ、ヒジキ、ウミトラノオ、オオバモク、アラメ、カジメ、ワカメ、ツノマタ、マクサ、トサカノリなどが挙げられる。

磯周辺では、フナムシ、イワフジツボ、カラマツガイ、ウノアシ、ヨメカガサ、イソギンチャク、イソガニ、クロフジツボ、ヒザラガイ、マツバガイ、カメノテ、ムラサキカイメン、アゴハゼ、オオヘビガイ、バフンウニ、ヤドカリ、クボガイ、イボニシ、イシダタミ、スガイ、イシマテ、ムラサキウニ、ケヤリムシ、ニシキベラ、バライラ、トコブシ、サザエ、イタヤガイ、マテガイ、タコノマクラ、などが、そして水深が少し深くなると、ウミタナゴ、クサフグ、カワハギ、ゴンズイ、メバル、メジナ、アジ、ブダイなどが見られる。



大房岬海岸



アマオブネ



クマノコガイ



ヒライソガニ



フナムシ



ラセイタソウ（海岸植物）



テングサ



イソギク（海岸植物）

ハイキングコース

ア) 距離と標準時間

J R 富浦駅から国道 127 号線に出て南下、岡本川に架る岡本橋を渡って館山バイパスが始まる丁字路を直進すると右に折れる道がある。既に右手にはこんもりとした山塊が視野に入る。これを目指して西進、麓に沿って右に回り込むとアスファルト道路は大きく左に曲がる急坂となる。

駒澤大学セミナーハウスを左に見ながら登り続ける。右手には釣りで賑わう富浦漁港を擁する富浦湾の見事な近景から、勝山の浮島までが遠望できる。登り切って左側に別荘が建っている辺りがピークであり、ここからゆるやかな下りとなる。

下りきったところで道は二股に分かれている。左の坂を下りれば大島桜がたち並ぶ海岸園地を経て南繫船場と呼ばれる磯と浜に出る。

道なりに右の坂道を登りきると左手に公園案内所の建物と広い駐車場とがある。この駐車場の周囲に沢山の桜が植樹されている。

イ) 文化財

帝国陸軍の要塞路

ウ) 建造物

少年自然の家や2つのキャンプ場、芝生園地、ビジター・センター等の施設がある。



ビジター・センター

4.見どころ

1) 産業・特産品

房州びわ

約250年前から栽培され始めたビワは今や全国一の生産量を誇り、この名前を冠した道の駅とみうら「枇杷倶楽部」は地元の特産物や体験プランが蓄積されたスポットとして地域の交流・情報の拠点として活躍している。



特産の房州びわ

2) その他

枇杷倶楽部

JR富浦駅前から国道127号線を南下、岡本川を渡り、丁字路を館山バイパス方面に左折して直進すると右手に道の駅とみうら「枇杷倶楽部」の特徴ある建物があらわれる。(道路を挟んだ左側は高速バスや接続する町内バスの発着場と駐車場とになっておりその奥には無料サービスの足湯もある「元気倶楽部」の建物が2006年に作られた)

日本一のビワの産地として知られる富浦の枇杷倶楽部は旧富浦町が1993年に建設、2000年度の全国道の駅グランプリで最優秀賞を受賞した。

人、文化、自然とのふれあいを大切にし、特産のビワを使用したオリジナル商品の開発、販売から、各種イベントの開催まで多彩な活動をしている。



枇杷倶楽部とオリジナル商品

例えば、日本三大うちわのひとつ房州うちわの製作が見学できたり、細密画教室（毎月第1、3土曜日）に参加できたり、人形劇フェスティバル（7～8月）を主催したりする他、大房岬探検隊、史跡めぐり、ビワ狩り、イチゴ狩り等の申込みを受け付けている。



大房岬探検隊



オルゴールづくり



太巻き寿司づくり

建物内のギャラリーは落ち着いた雰囲気の中で、年間を通じて地域活動の発表や、絵画、陶芸などの作品を展示できる場所として人気が高い。

勿論、土地の農産物、海産物やそれらの加工品を廉価で販売していることは言うまでもない。